

# 新年度予算、自治基本条例などで論戦始まる

## 日本共産党議員団は市民の暮らしを守る立場でがんばります

2月27日から予算議会が始まりました。この日は、市長による所信表明・提案理由の説明が行われたほか、総括質疑に入りしました。

総括質疑には9議員が質問通告、27日は杉田、滝沢、岩崎、矢野の4議員が登壇しました。4議員ともとりあげた議案は新年度一般会計

算です。「基礎的な市民サービスを維持しながら着実に前進するための確かな予算とあるが、具体的にどう編成したか」

「財政硬直化の心配はないか」「市長の政策的意図がどこにあるか理解しにくい。まちづくり重点戦略に沿った予算とはい



【凍み渡りのできる雪原】横曽根にて撮影

いがたいのでは」などの質問が相次ぎました。今議会には注目の自治基本条例も提出されました。これまで議会でも条例に盛り込むべき内容の検討がされ、そのほとんどが条例案に盛り込まれたことから、今議会での論戦はまずないだろうというのが大方の予想でしたが、総括質疑で改正手続きに関して市民投票軽視の答弁が出たことにより、常任委員会では活発な論戦が展開される雰囲気になってきました。

党議員団からは杉本議員団長が総括質疑を行います。予算編成方針で「第5次総合計画の財政フレームに裏打ちされた真に必要なとされる施策を計画的に」とあるが真に必要なとされる施策とは何か、国保税の大幅値上げで市民が苦勞しているのに、2年間で4億円も積み立てるのはどういう考えか、など市民の暮らしを守る立場で質問を展開します。

## 「日本共産党議員団の4年間の歩み」

### 第二回：合併問題などで先を見据えた議論に心がけました

この4年間の最大の出来事は、何といっても「合併」です。

この合併問題（合併問題に限ったことではありませんが）で、日本共産党議員団が心がけてきたことがあります。それは合併の問題で試されました。ただ単に「合併反対」と声高に叫んでいてもどうにもならないということとです。当時の状況からすれば、13町村全部が合併しないとしても幾つかの町村が合併してくるはずで、その時にそれら町村の住民の負担をどう軽減し、苦難を取り除くかということとです。そういう立場から、本会議や委員会でのいろいろな提言もし発言をしてきました。行政の皆さんもそれを受け入れて実現してくれました。合併に限らずすべての問題で「被害を最小限に抑えること」でやってきてことが、県内でもトップクラスの成果を生むことにつながったと思います。

合併の際いろんな所で「合併しないと財政的に大変なことになる」ということが強調され、合併が推進されました。私たちは「それならば、合併したら財政はどうなるのか試算して公表すべきだ」と追及しました。これは13町村ではやりたくてもなかなかできないことでしたが、受け入れ先の旧上越市では真剣に検討されました。その結果、最初は合併後15年間のシミュレーションが公表されました。それが引き継がれて、合併協議の中で10年間の試算が示されました。それがさらに「地域事業費」として受け継がれ、第5次

総合計画改訂版の財政見直しとなってきているのです。「財政試算」がなかったら、「地域事業費」もなかったかも知れません。

地域自治区や地域協議会設置も力を入れてきた問題の一つでした。一部には「合併のガス抜き」という見解が強くありました。旧上越市では、「将来の住民自治のあり方」として、合併に関わりなく早くから議論されてきました。それが皮肉なことに13区で実現したのに旧上越市では未だ導入できないのです。

合併にあたって、14市町村で実施されていた2000を超えるたくさんの方々の事業の調整が行なわれました。この調整にあたって、私たちはいろいろな意見を述べ、要求をしてきました。多くの事業が旧上越市の事業に統一されましたが、「3年後の見直し」「5年以内の見直し」など、激変緩和の措置を導入することにつながったと思います。この「激変緩和」が終わり、見直しが始まっています。ここでも「住民の苦難・被害を如何に食い止めるか」の立場でがんばりたいと思います。（文責・杉本）



写真は橋爪議員の記録写真から。2004年6月12日の第11回合併協議会の様子。

## 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 127 2008年3月2日

連絡先	杉本敏宏	524-3787	(東本町5)
	樋口良子	544-6802	(中門前3)
	橋爪法一	548-3628	(吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203	(頸城区中柳町)